

文学部、情報学部 (人間・社会情報学科)

問題 I

問 1

前方後円墳とよばれる墳形。

竪穴式石室という埋葬施設。

銅鏡・玉類などの呪術的な副葬品。

問 2

墳丘規模は小型化し、古墳の数は爆発的に増加して限られた地域に密集して築かれる群集墳が形成され、埋葬施設は追葬可能な横穴式石室になった。

問 3

稗田阿礼が「帝紀」「旧辞」を誦習したものを筆録し、『古事記』を編纂した。

問 4

末法の到来を前にして後世まで仏教経典を伝えようと、自ら書写した経典を経筒に入れて、身体を百日潔斎し、僧侶らとともに霊山に埋め経塚をつくった。

問 5

人事権を握る藤原道長に奉仕することで受領の地位を得ようとした。受領は税の確保など任期中の功績を公卿の合議により審査・承認される必要があった。

問 6

源頼朝は、逃亡した源義経を追討するため、朝廷から全国に守護・地頭を任命する権限を獲得し、義経をかくまった名目で自ら諸国の御家人を率いて奥州藤原氏を攻め滅ぼし、陸奥・出羽両国を含む全東国の支配権を獲得した。

文学部、情報学部 (人間・社会情報学科)

問題 II

問 1

滝口の武者は、朝廷が武士の武力を利用して宮中を警備するためにおいた。

問 2

主人は寺社内部への参詣を目的として正式な立烏帽子に武家の正装である狩衣の装束を着した。一方、従者は寺社の外まで主人の参詣の供をしたと考えられ、簡略な折烏帽子に当時の下級武士の服装である直垂や水干の略装であった。

問 3

室町将軍との関係から武士の装束である直垂が公家内部にも広まったが、本来の公家の正装である束帯や略式の衣冠・直衣・狩衣などとは違い、直垂は朝廷内部で正式な装束としては認められなかったため昇殿は許されなかった。

問 4

文禄の役の結果、明の万曆帝から講和使節がきて秀吉に衣冠を贈った。万曆帝が日本の天皇の王位を剥奪する、秀吉が日本だけでなく朝鮮も支配した、万曆帝が秀吉を「帝位」につけようとしたなどの事実誤認や誇張がなされている。

文学部、情報学部 (人間・社会情報学科)

問題Ⅲ

問 1

明は自国民の海外渡航を禁じ、朝貢国以外とは貿易を行わないという海禁政策をとっており、琉球は明の冊封をうけ朝貢して明の物品を入手し、それらを梃子に朝鮮や日本、東南アジア諸国とのあいだで中継貿易を行い、繁栄した。

問 2

琉球の使節が将軍に「異国人」として入貢する形をとることで、国内の人々に将軍が海外の国をも従わせているように思わせ、将軍権威の高揚に利用した。

問 3

琉球王国を琉球藩に改め国王尚泰を藩王とすることで琉球を政府直属とし、台湾での琉球漁民殺害事件を背景とした台湾出兵に関する交渉で有利な立場に立った。さらに、琉球に軍隊を送り、琉球藩を廃して沖縄県の設置を強行した。

問 4

ア 昆布 地名 蝦夷地

文学部、情報学部 (人間・社会情報学科)

問題 IV

問 1

外務大臣陸奥宗光のもとで日英通商航海条約が調印され、領事裁判権の撤廃と関税率の引き上げ、相互的最恵国待遇や居留地の廃止などが実現した。

問 2

満州を中国の主権から切り離し日本の勢力下におこうと、関東軍が満州事変を展開しているなかで、中野正剛は国内の挙国一致のためにもその軍事行動を支持しており、政党政治の行き詰まりを感じている国民もこれを支持していた。

問 3

井上準之助は金輸出解禁断行により、貿易振興のための為替相場の安定を図った。これに対し、高橋是清は金輸出再禁止を実施し、低為替政策を推進した。

問 4

田中角栄。従来の東京一極集中の進行をおさえるため、都市と地方を結ぶ交通網を整え、工業の地方再配置などにより都市と地方の格差の是正を図った。

問 5

戦前は進学者が限られていたが、戦後は大幅に大学が増設されて大衆化した。